

ひまわりからの メッセージ

166号

2025.10.20

NPOひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

気候の変化の中で

何か……変……？



朝夕はめっきり涼しくなりました。

昨年の秋は、柿が熟することなく落ちたり、枝に残ったまま枯れたりして私たちの口に入ることはありませんでした。今年は今までになく枝もたわわに実って早くからひよどりが集まって来ています。落ちる実も多いけれど、今年は多少口に入るかなあと思っています。

一方、庭の隅を見ると、例年にないことが起きています。何と杜鵑草（ほととぎす）に毛虫がついていないのです。この花を好む瑠璃蛱蝶（ルリタテハ）の幼虫（毛虫）が例年は葉を喰い荒らしていくのですが、今年は一匹もいないのです。ですから例年のように葉のない憐れな姿の杜鵑草は一本もなく、下まで葉のついた姿で風に揺れています。

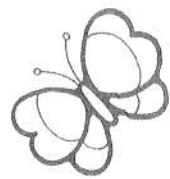
酷暑が自然界にも影響を及ぼしているのではう。黄楊羽も姿を見せてくれません。

もちろん、それは子ども達の生活にも及んで、夏休みにもプールに行けず、外で遊ぼうにも暑くて外に出られず、ゲームやYouTubeに夢中になるのも当然のことかもしれません。でも、子どもたちの身体が心配です。大丈夫でしょうか。

そうそう、私は朝のラジオ体操を始めました。生活の中に二ほれ時間を使って、かかと落としやストレッチをしてきましたが、片足立ちの時間は一分を切り、立ちながら履けていたストッキングもふろくようになってきました。老化は確実に進んできています。でも、これから子どもたちは、しっかり体を作っていくってほしいものです。幼児期の遊び、大切ですね。さて、それぞれの市町では教育支援委員会が終わろうとしています。所属の園や学校では子どもたちのより良い学びの場を選択していくための話し合いが続けられてきたことではう。しかし、今でも「勉強さえ出来れば……」という風潮は根強く、生き難さを抱える子どもたちは（大人も）増えているように思います。世の中の移り変わりと共に、子どもが育つ環境は大きく変化してきました。以前の定型発達でははかれなくもなっています。インクルーシブの実現のためには、もっと思いきった改革が必要な気がします。……？、

河島淳子先生の

自閉症児の子育て



前号でトモニ療育センターの河島淳子先生について触れましたが、今回はその続きます。

時代も変わり、保護者の方々の意識も変わりました。でも「障がいがあると言われるお子さんは増えているのではないだろうか」「障害を持つ」と言わず「障害がある」といわれることに、私は異和感があります。と言うのも、生まれつき「障害がある」のか、いや、環境によって、社会的障壁によって二次的に持つことになるのか、大きな違いがあると思うからです。

それはともかくとして、自閉症の息子さんを育てられた河島先生の子育てについて講演会資料の中から拾ってみたいと思います。

内面を豊かにする

「人間は一人では生きられず、他者との関係の中で生きている。社会（家庭・学校・就労先など）に喜んで受け入れられるためには、自分のことが出来ると共に人のことも喜んで出来る人間、感謝できる人間、仲間と一緒に楽しめる人間に育て

よう。そのためには、内面的目標を常に意識しながら、具体的目標の達成をめざす。」と書かれています。

そして、具体的目標として次の五点があげられている。

① 社会的に受け入れられる行動ができる。（行動障害を付けない）

② 生活習慣（特に入浴と排泄）の確立

③ 言語力（コミュニケーション力）をつける。

④ 基礎学習と家庭科技術と職業技術の獲得

⑤ 余暇を楽しみ、うまく扱うことができる。

では、内面の豊かさとは何か？それは足ることを知ることであり、感謝できることであり、今ある恵みに気づけること、役立つことに喜びを感じられること」と記されています。そのためには、当り前の子育てを丁寧に引き届いてすることだと言われます。

社会性の一步は……



指示に従うことは、コミュニケーションでもあり、相手の気持ちに合わせることです。これは社会性の一步です。

親は子の召使いになつてはならない！

尽くして世話して守って可愛がって育てていると、子どもはやつてもらうて当然と思つて主張し、できることもせず、無理に

させようとする、大抵抗するようになる。母親は結局は子どもをしつこくに負けて譲ってしまう。母親は無意識に障害ある子を特別視し、気を遣い、要求に応えることを喜び、自分は子と思って世話していると思っているが、子どもの方は、自分中心で自分が一番偉いホスだと誤解する。母親に自分の指示に従ってもらいたがるが、自分は指示に従わない。喜びことをすれば機嫌がよいが、嫌なことをさせようとすると機嫌が悪くなる。身体が大きくなり力がつく親にとって子供は恐怖の対象となる。子供の機嫌をうかがいながら生活するようになる。

多くの母親は、かんしゃくを恐れるあまり、無意識のうちに不機嫌になるのを避けようとしてしまう。「子どもが、かんしゃくを起すだろうな」と分かる場面になると、それを回避しようとしたり、できるだけ子どもの感情を逆なでしない様に配慮してしまう。その機嫌を取るような配慮が、自己中心性と甘えを増し、「気がいい」「気がね」をしない人にしてしまう。」

(原文のまま)

この一文を読んで、こういうことは家庭だけでなく、園でも学校でもあるのではと思うのです。ある保護者に「相手の子がうちの子を怒らせるようなことをしたから、相手の子が悪いんです」と訴えられたことがありましたが、子どもの

召使いや家来になっている人、または、その予備軍も相当多いのではないだろうか。親として踏んばれるかどうかは、将来の自立にもかかわってくることです。大人の方の相談の中には、成人された息子さんの言うなりにになっておられる親さんが少なからずいらっしゃいます。幼児期はとも大事な時期ですから、子どもの要求が全て通るという育て方は見直すべきでしょう。パニックの原因となるものを避けるも、有ればパニックになって根本解決にはなりません。

課題学習を通して培う力

トモニ療育センターでは、身近の世話をしている段階から①から⑩までの数字並べに取り組んで母親の指示に従って行動できるように教えられる。母親がリーダーなのです。

この他にも自立に向けて算数学習や弁別、マトリックス、時刻と時間、お金、読み書き、文章など様々なプログラムがあります。「子どもは適切な時期に適切な療育をする必要がある」という信念のもと、多くの自閉症の子どもたちや保護者の方を支援してこられたのだと思います。「社会性の一步は、指示に従うこと」というのは、先生の信念だったのでしょう。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

5	10
4	9
3	8
2	7
1	6

問題行動には意味がある

「自閉症児の問題行動には、危険な行動、迷惑な行動、非社会的行動、指導の妨けとなる行動、集団生活を妨げる行動、奇妙な行動、理解に苦しむ行動などがあげられ、家庭や地域社会に安住できず家族や支援者を悩ませる。」

しかし、その行動には意味がある。彼らの意思、感情が表わされている。強い欲求、拘束への抵抗、自由への要求、反抗、拒否、恐怖、混乱、怒り、失望、悔しき、嫉妬、強い興味、愛されたい思い、望郷、フライト、淋しさなど「何が言いたいの?」「何を思っているの?」と支援者は読みとっていく必要がある。として「不適切な、あるいは間違った育児と教育の結果、諸問題は大人になるにつれて深刻化し、強度行動障害へと発展する」とも書かれています。

もちろん、先生は親の育児を責められているわけではありませんが、親さんも私たちも、子どもたちの認知特性を理解した上で、かわるべきかなければいけないということでしょう。

今は、児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所もふえて、保護者にとって、とても助かっているのでしょう。でも本当にひとりひとりのお子さんを理解し、専門的な療育がなされているでしょうか。先生が言っておられる「間違った育児と教育」にならないように心していかなければなりませんね。

泣けば自分の要求が通る、大声を出して暴れば何でもやってもらえるという誤った学習は、子どもたちの将来をああいうものにしていきます。

今、強度行動障害の人たちのことが問題になっています。本人の困りはもちろんですが、家族や支援者にとっても大変な課題です。地域社会の中でどの様に暮らしていくのか、どの様な支援ができるのか、自治体にとっても具体策がなかなか見い出せないというのが現実でしょう。

私たちは、間違った療育や教育をしてきてしまったのでしょうか。誰もわかりません。責任も負えません。でも困っている人を去りてきたのは他でもない私達です。そう考えると胸が痛みます。子ども達を去るそいく時私たちに必要なのは、ただ今が楽しければ良い、ただ受容してさえいれば良いということではなく、十年後二十年後を見越した保育であり、療育であり、教育であるべきということではないでしょうか。重い課題です。

<11月の予定>

5日 ピアサポート

10日 センター親の会

<保護者向け講話>

10日 墨俣小

18日 あすなろの園

19日 海津市みらい

<研修会>

6日 池田ネト7-7

26日 療育スタッフ

27日 ケース検討会

<成人相談>

市町と共催

申込は市町へ。

